

働くということ

法律事務所に勤めて5年半。振り返って、教わったことはたくさんあるが、一番大切なことは「働く」ということである。

法律事務所職員
船越 賢明

ともに働く仲間ということ

入所して1年に満たない頃のことである。朝起きると背骨に激しい痛みが走り、仕事を休んだことがあった。あまりの痛みで着替えもできず、その日はずっと寝ていたのだった。翌日、ある先輩が一人暮らしの私を心配して自宅を訪ねてきてくれた。先輩はその後、一緒に病院まで付き添ってくれたのである（診察の結果、「ひどい寝違え」と判明し、一安心。数日で痛みはひいた）。

職場の人にこれほど親身になってもらえるとは思ってもよらなかったもので、心底うれしかった。

その先輩に限らず、職場の仲間（もちろん弁護士&事務局）は、私が困ったときに本気で心配したり、私が間違えたときに本気で叱ったり、未熟な私を許容しつつ応援してくれたと思う。働くということは、こういうことなのだ実感した。

それまでの私はあまり他人の立場に立って物事を考えることはしない人間だった。どちらかというと、自分の立場で割り切った発言をし、自分の「本音」を相手にぶつけるようなことをしていたと思う。そうやって常に本音をいうことが誠実さだと勘違いしていた。

今は先輩がしてくれたように、仲間の小さな成長に気付いて喜んだり、仲間の物言わぬ苦しみに心を寄せられるようになりたいと思っている。

ともに働く仲間に誠実であることは、自分自身やその職場、仕事を大事にすることだ。仲間を大切にできず、自分自身も大切にされないような職場においては、

人生の一大事をかかえて相談にくる依頼者を、本当の意味で大切にできるはずがない、と思う。

働くことは生きること

私が働く目的は、ただ賃金を得て食べていくためだけではない。

自分が少しでも関わった事件が解決したとき、小さいながら達成感や喜びがある。失敗もまだまだ多いが、「今度はこうしよう」と反省したり、「もっとできるようになりたい」という向上心もある。また、依頼者の立場に寄り添ったり、ときには制度改善を求めて社会に声をあげるときの思いは、弁護士のそれと同じだと思う。

私にとって働くということは、成長することであり、生きることである。

この12月に第1子が誕生する。どんな子どもが生まれてくるのか、これから一体どんな生活になるのか、こんな父親で大丈夫なんだろうかなどなど、期待と不安がごちゃになったような不思議な気持ちだ。兎も角、これまで以上に健康に気をつけて働きたいと思うようになった。働くことに、これまで以上の意味がある。

これからも頑張って働きたい。私が働くことが事務所の魅力となり、また事務所で働くことが私の魅力でもあるような、そんな職場をつくっていきたい。仲間とともに。